

2025. **7**
No. **234**

調査レポート

県内勤労者の消費・貯蓄動向 ～第73回くらしのアンケートから～

要	約		1
1	家計の状況		3
2	耐久消費財の購入状況		4
3	外食		6
4	貯蓄		7
5	ローン等の利用		8
6	夏季ボーナス		10
7	お中元		11
8	夏休みの過ごし方		13
(特別調査) 賃上げ・物価上昇関連			... 14



山梨中央銀行

要 約

1. 家計の状況

- 1年前と比べた暮らし向きは、「良くなった」が7.4%、「悪くなった」が34.9%、「変わらない」が57.7%。「良くなった」から「悪くなった」を引いた差は△27.5で昨夏と比べて6.1ポイント悪化。企業の景況感が上向き、雇用・所得環境が改善しているものの、物価高騰による家計負担感の増加が影響し、県内勤労者の生活実感は前年よりも悪化。
- 家計上の悩み（3項目選択）は、「物価上昇」が1位となり、以下、「収入の伸び悩み」、「税金等負担増」の順。

2. 耐久消費財の購入状況

- 耐久消費財の普及状況は、「スマートフォン」、「パソコン」、「ETC」の順。
- 今後半年以内に購入希望のある耐久消費財は「スマートフォン」が最も多く、以下、「パソコン」、「4K・8Kテレビ」の順。

3. 外 食

- 外食は、毎月1回以上の利用が71.9%で、昨夏（70.6%）と比較すると若干の上昇。
- よく利用する店舗は、「ファミリーレストラン」が最多で、以下、「回転寿司」、「ファストフード」の順。

4. 貯 蓄

- 平均貯蓄額は540万円で、昨夏と比べて18万円増加。
- 現在利用している金融商品は、「銀行預

金」、「ゆうちょ銀行貯金」、「生命保険」の順。今後増やしたい金融商品は、「銀行預金」、「投資信託」、「株式」の順。

- 貯蓄する際重視する点は「元金の保証があり安心」が最多で、以下、「預け入れ引き出しが自由」、「金利が高い・利回りが良い」の順。

5. ローン等の利用

- ローン等の利用者は26.0%で、平均借入額は904万円。
- 利用目的は「土地・住宅の購入」が最も多く、以下、「自動車・家電品の購入」、「子や孫への教育資金」の順。
- 借入先は「銀行（メガバンク・地方銀行）」が最も多く、以下、「月賦・クレジット会社」、「ネット銀行」の順。
- 借入先を選択する理由は、ローン利用者、未利用者ともに「金利の低さ」が1位で、2位はローン利用者が「審査が通りやすい」、未利用者は「手数料負担が少ない」。

6. 夏季ボーナス

- 夏季ボーナスの予想は、「減りそう」の比率が「増えそう」の比率を上回ったが、両比率の差は昨夏比5.8ポイント縮小。賃上げの動きが広がるなか、勤労者のボーナスに対する厳しい見方が緩和。
- 平均手取り予想額は39万2千円で昨夏と比べて1万円の減少。
- 使いみちは「貯蓄」が最も多く、以下、「買物」、「生活費の補填」、「旅行・レジャー」の順。

7. お 中 元

- お中元を贈る予定者は、全体の 33.4%。
贈る件数は「2 件以下」が最も多く、平均
件数は 3.1 件で昨夏から増加。
- 1 件あたりの単価は、「3,000 円程度」
と「5,000 円程度」が最多（同率）。平均
単価は 3,910 円（昨夏 3,900 円）と昨夏よ
り上昇し、平均予算総額も 12,121 円（同
11,700 円）と、昨夏に比べて増加。
- 贈りたい商品は「お菓子・スイーツ」が
最多で、以下、「ハム・ソーセージ」、「果
物」、「お茶・コーヒー」の順。

8. 夏休みの過ごし方

- 「特に予定なし」を除くと、「日帰り旅行」
が最多で、以下、「国内宿泊旅行」、「帰郷」、
「スポーツ・健康づくり」、「アウトドア」、
「海外旅行」の順。
- 「国内宿泊旅行」の宿泊日数は「2 泊」
が最多となり、平均宿泊日数は 1.9 泊。

● 調査実施要領

調査対象：インターネット調査会社にモニ
ター登録されている県内の勤労者
551 名

調査方法：調査会社モニターあての Web ア
ンケート調査

調査時期：2025 年 5 月下旬から 6 月上旬

（特別調査）賃上げ・物価上昇関連

賃上げの状況、物価上昇に伴う家計への
影響について調査を実施。

- 昨年と比べた定例給与の水準について
は、「増えそう」が 15.0%、「変わらない」
が 69.5%、「減りそう」が 13.1%。
- 定例給与増加の理由については、「定
期昇給」が 42.8%、「ベースアップ」が
32.9%、「定期昇給とベースアップ」が
18.6%。
- 昨年と比べた 1 か月の家計負担の増加額
については、「5,000 円以上 10,000 円未満
増加」が 23.9%、「10,000 円以上 20,000 円
未満増加」が 16.5%、「20,000 円以上増加」
が 13.1%、「5,000 円未満増加」が 9.3%。
6 割強が昨年と比べ家計負担が増加したと
回答。
- 主に増加した項目については、「食費」
が最多で、以下、「燃料費（ガソリン代）」、
「水道・光熱費」、「外食費」の順。

〈 回 答 者 内 訳 〉

内訳	項 目	回答者数	構成比
年 代 別	20 代	113人	20.5%
	30 代	107	19.4
	40 代	165	30.0
	50 代 以 上	166	30.1
家 族	既 婚	304	55.2
	未 婚	247	44.8
性 別	男 性	383	69.5
	女 性	168	30.5
合 計		551	100.0

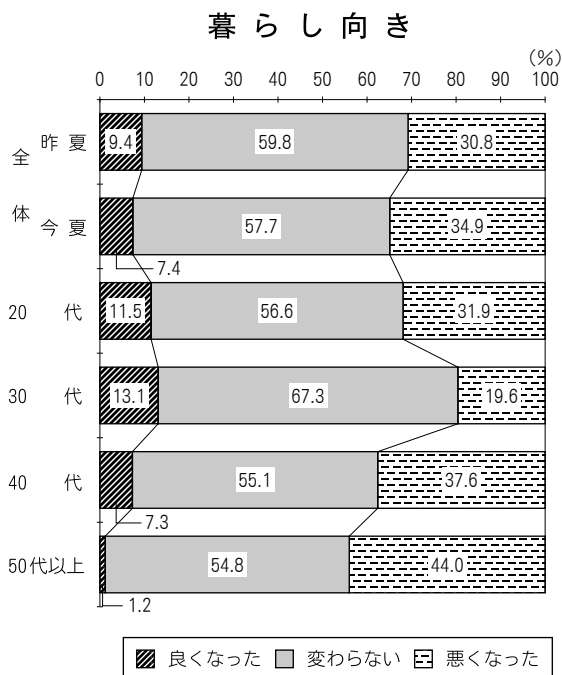
1 家計の状況

生活実感は悪化傾向が続く

1年前と比べた暮らし向きは、「良くなった」が7.4%、「悪くなった」が34.9%、「変わらない」が57.7%となった。この結果、「良くなった」から「悪くなった」を引いた差は△27.5となり、昨夏（△21.4）と比べて6.1ポイント悪化した。

県内景気をみると、企業の景況感は緩やかながら上向いており、人材の確保・維持に向けた待遇改善や従業員の生活支援などの観点から、雇用・所得環境も改善傾向にある。しかし、食料品や光熱費など生活関連の物価高騰による家計負担の増加が影響し、生活実感は前年よりも悪化している状況が窺われる。

年代別にみると、「良くなった」から「悪くなった」を引いた差は20代が△20.4（昨夏△11.7）、30代が△6.5（同△10.1）、40代が△30.3（同△27.1）、50代以上が△42.8（同△28.6）となっている。特に、50代以上は「良くなった」の回答比率が1.2%にとどまったのに対して、「悪くなった」の回答比率は44.0%と高く、若年層と比較して生活費負担の重い中高年層に、暮らし向きの厳しさが窺われる。

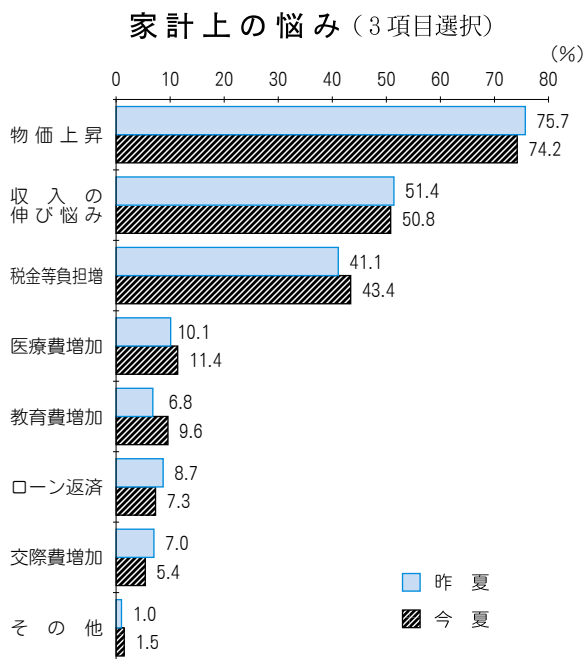


家計上の悩みは「物価上昇」が引き続き1位

家計上の悩み（3項目選択）は、「物価上昇」が74.2%と最も多く、以下、「収入の伸び悩み」（50.8%）、「税金等負担増」（43.4%）と続いた。

このうち「物価上昇」は、昨夏を1.5ポイント下回ったものの、依然として過去最高に近い水準で、引き続き1位となった。昨夏以降、米の価格が上昇傾向にあるなかで、4月には食品・飲料などで4,000品目以上の値上げもあった。身近な品目の物価上昇が、家計に大きな影響を与えている様子が窺われる。

昨夏と比較すると、比率が上昇した項目は「教育費増加」、「税金等負担増」、「医療費増加」であった。一方、比率が低下した項目は「交際費増加」、「物価上昇」、「ローン返済」、「収入の伸び悩み」であった。



2 耐久消費財の購入状況

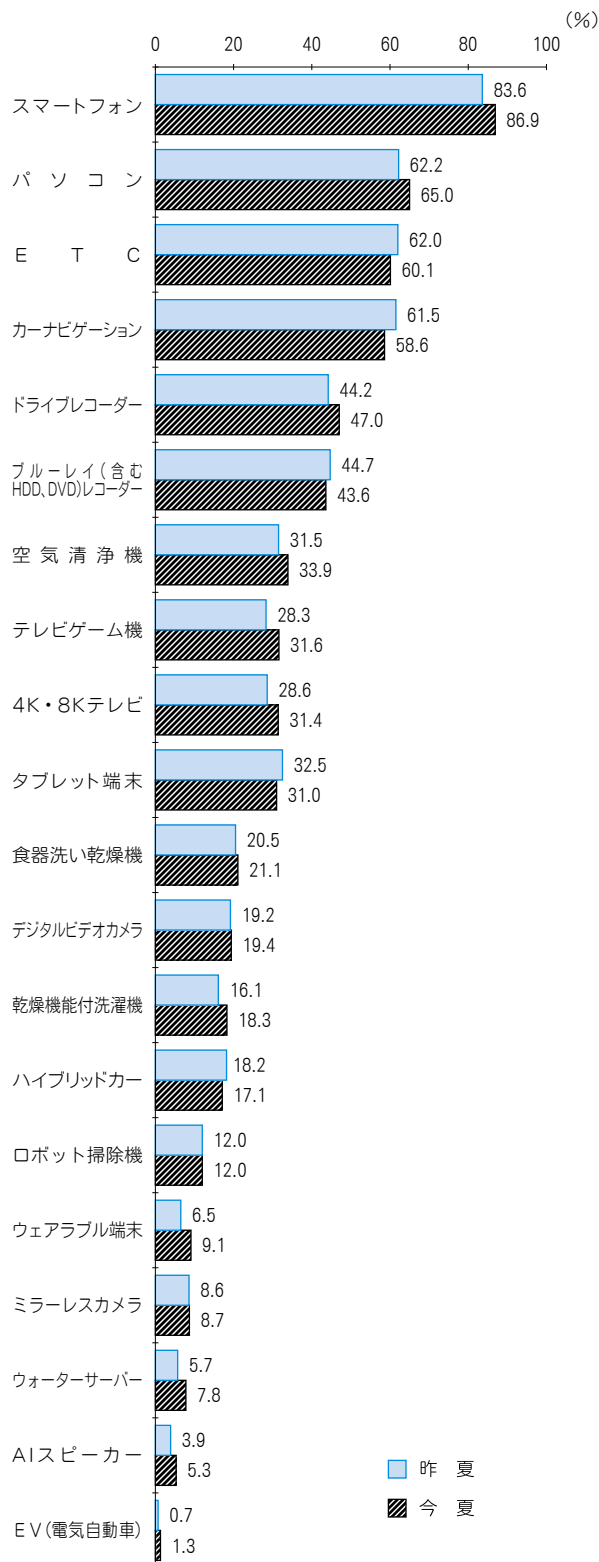
普及率は「スマートフォン」がトップ

耐久消費財のうち、主要家電品など 20 品目についてその普及状況をみると、「スマートフォン」(86.9%)、「パソコン」(65.0%)、「ETC」(60.1%)、「カーナビゲーション」(58.6%)の順となった。

昨夏と比較すると、「スマートフォン」・「テレビゲーム機」(昨夏比+3.3ポイント)、「パソコン」・「ドライブレコーダー」・「4K・8Kテレビ」(同+2.8ポイント)、「ウェアラブル端末」(同+2.6ポイント)などの比率が上昇した一方、「カーナビゲーション」(同△2.9ポイント)、「ETC」(同△1.9ポイント)、「タブレット端末」(同△1.5ポイント)などの比率は低下した。

年代別の普及率をみると、「スマートフォン」はすべての年代で1位となっており、普及率も20代が92.0%と9割を超えたほか、その他の年代も85%前後と、広く普及している様子が窺われる。2位は20代、50代以上が「パソコン」、30代、40代が「ETC」、3位は20代が「ETC」、30代、40代が「パソコン」、50代以上が「カーナビゲーション」となっている。

耐久消費財の普及状況

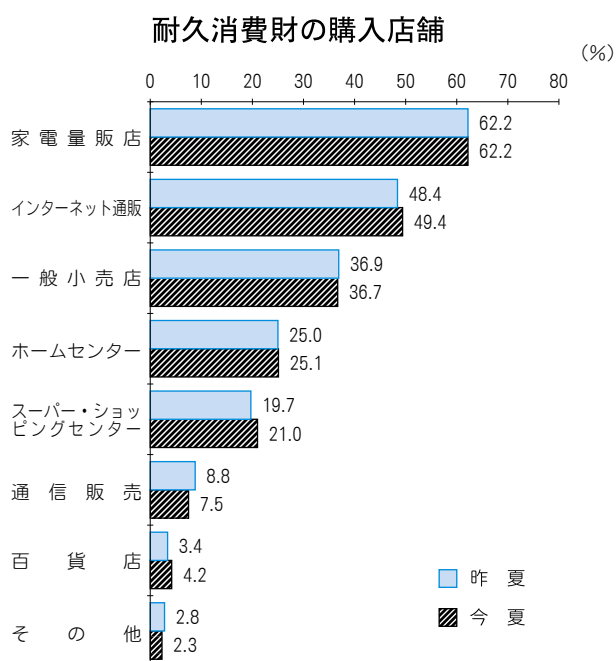


購入店舗は「家電量販店」がトップ

耐久消費財を購入した店舗（複数回答）は「家電量販店」が最も多く、以下、「インターネット通販」、「一般小売店」、「ホームセンター」、「スーパー・ショッピングセンター」の順となった。

前回同様 1 位となった「家電量販店」（62.2%）の購入比率は、2 位の「インターネット通販」（49.4%）を 12.8 ポイント上回っており、耐久消費財が主に家電量販店で購入されている状況が続いている。また、「インターネット通販」は、20 代、30 代の利用率が各々 45.4%、46.0%であるのに対し、40 代、50 代以上は各々 53.2%、50.6%となっており、中高年層の利用率が高いという特徴がみられた。

昨夏と比較すると、順位の変化はみられないが、「スーパー・ショッピングセンター」、「インターネット通販」、「百貨店」、「ホームセンター」の比率が上昇した一方、「通信販売」、「一般小売店」の比率は低下した。

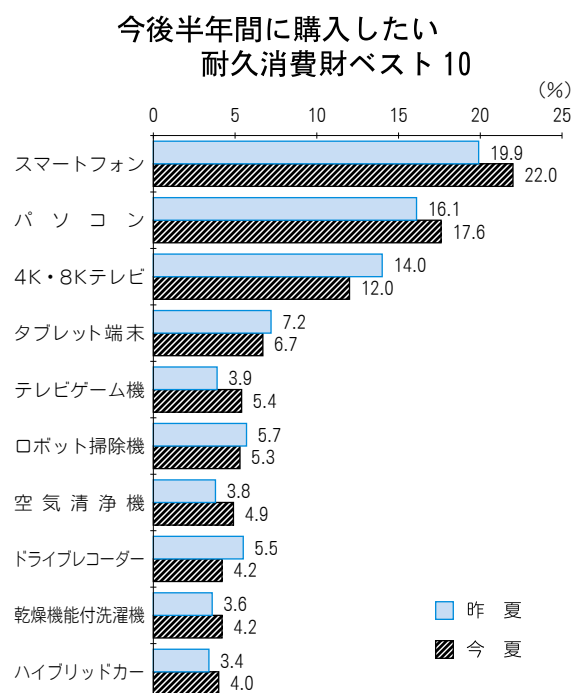


購入希望も「スマートフォン」が最多

今後半年以内に購入希望のある耐久消費財（複数回答、3 品目以内）をみると、1 位は「スマートフォン」（22.0%）で、以下、「パソコン」（17.6%）、「4K・8K テレビ」（12.0%）、「タブレット端末」（6.7%）の順となった。

上位品目の動きをみると、「スマートフォン」は 20～40 代で 1 位、50 代以上で 2 位と各年代から支持を集め、昨夏から 2.1 ポイント上昇し、引き続き 1 位となった。また、「パソコン」が昨夏から 1.5 ポイント上昇し、2 位を維持した。

上記品目以外の動きをみると、比率が上昇した品目は「テレビゲーム機」、「空気清浄機」、「乾燥機能付き洗濯機」、「ハイブリッドカー」などであった。一方、低下した品目は「4K・8K テレビ」、「ドライブレコーダー」、「タブレット端末」、「ロボット掃除機」などであった。



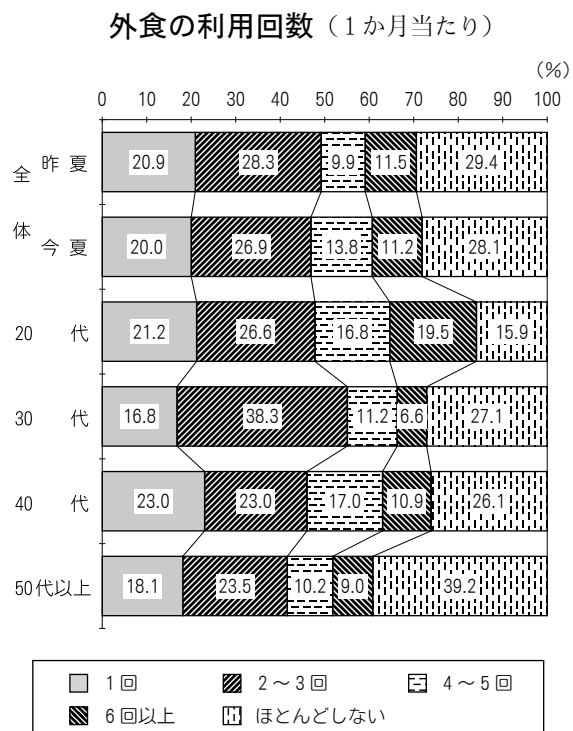
3 外 食

外食の利用状況は「ほとんどしない」が最多

家族での外食の利用状況をみると、全体の71.9%が毎月1回以上利用しており、その比率は昨夏（70.6%）と比べて1.3ポイント上昇した。

内訳をみると、「ほとんどしない」が28.1%と最多で、以下、「月2～3回」（26.9%）、「月1回」（20.0%）、「4～5回」（13.8%）、「6回以上」（11.2%）の順となっている。

なお、外食の利用状況を年代別にみると、毎月1回以上利用している割合は20代が84.1%（昨夏83.6%）、30代が72.9%（同69.5%）、40代が73.9%（同71.8%）、50代以上が60.8%（同62.6%）となっている。



上位店舗は安定的な人気

よく利用する店舗（3項目以内）は、「ファミリーレストラン」（52.3%）が最多で、以下、「回転寿司」（37.9%）、「ファストフード」（35.2%）、「中華料理・ラーメン店」（31.4%）、「和食専門店」（16.0%）と続いた。

1～4位は昨夏と同順位で、昨夏と比べた増減率がいずれもプラスマイナス1%未満と、安定した人気が窺われる。一方、「居酒屋」、「焼肉店」、「洋食専門店」の比率の低下が比較的に目立っている。

年代別にみると、すべての年代で1位が「ファミリーレストラン」となり、2位は20代が「ファストフード」、30代が「回転寿司」・「ファストフード」（同順位）、40代以上は「回転寿司」となった。

よく利用する外食店舗（3項目選択）

	昨夏	今 夏				
	全体	全体	20代	30代	40代	50代以上
ファミリーレストラン	51.9	52.3	63.7	55.1	46.7	48.2
回 転 寿 司	38.6	37.9	38.1	36.4	39.4	37.3
ファストフード	34.7	35.2	44.2	36.4	37.0	26.5
中 華 料 理・ ラ ー メ ン 店	32.0	31.4	29.2	29.0	35.2	30.7
和 食 専 門 店	14.6	16.0	12.4	21.5	15.2	15.7
焼 肉 店	15.0	11.6	12.4	12.1	10.9	11.4
カ フ ェ	10.0	11.4	16.8	15.0	9.7	7.2
居 酒 屋	14.6	9.4	11.5	8.4	10.3	7.8
洋 食 専 門 店	10.7	7.8	8.0	13.1	5.5	6.6
そ の 他	0.7	2.0	0.9	0.0	2.4	3.6

4 貯 蓄

平均貯蓄額は540万円

現在の貯蓄額の平均額は540万円（昨夏522万円）で昨夏と比べて18万円増加した。年代別に貯蓄額の平均額をみると、20代が312万円（昨夏比+4万円）、30代が503万円（同+74万円）、40代が541万円（同+32万円）、50代以上が720万円（同+2万円）となっている。

貯蓄額の分布をみると、「100万円以下」が最多で、以下、「101万円～200万円」、「2,001万円以上」、「201万円～300万円」・「401万円～500万円」（同順位）の順となった。

利用している金融商品（複数回答）は、「銀行預金」が82.8%と最も多く、以下、「ゆうちょ銀行貯金」、「生命保険」、「投資信託」、「個人年金」、「株式」の順となった。昨夏と比較すると、「ゆうちょ銀行貯金」、「株式」などの利用率が上昇した一方、「生命保険」、「銀行預金」、「個人年金」などの利用率は低下した。

年代別に利用率をみると、「銀行預金」は30代で7割超、20代と40代以上で8割超となっている。また、「株式」と「外貨預金」は年代が高いほど利用率が上昇している。

今後増やしたい金融商品は「銀行預金」が最多

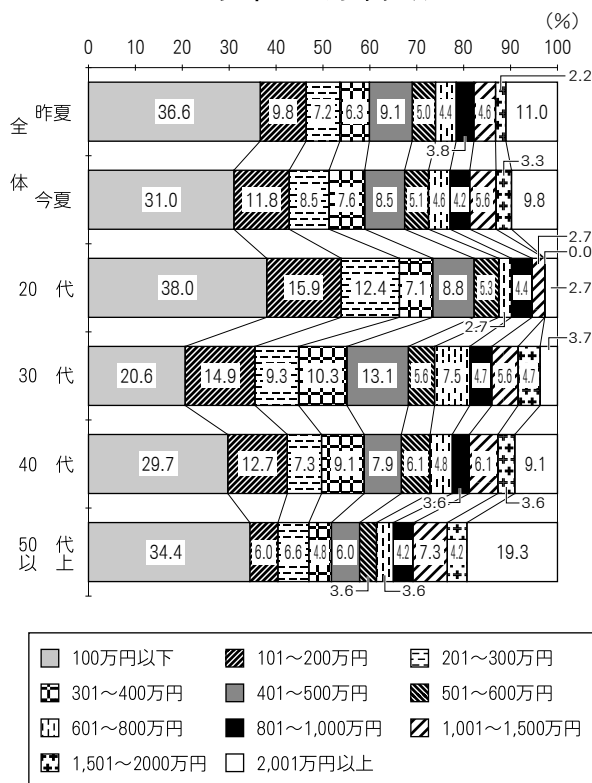
今後増やしたい金融商品（複数回答）は「銀行預金」が最多で、以下、「投資信託」、「株式」、「ゆうちょ銀行貯金」、「個人年金」の順となった。

年代別にみると、すべての年代で1位は「銀行預金」となった。2位は20代と30代が「株式」、40代が「株式」と「投資信託」（同順位）、50代以上が「投資信託」となった。

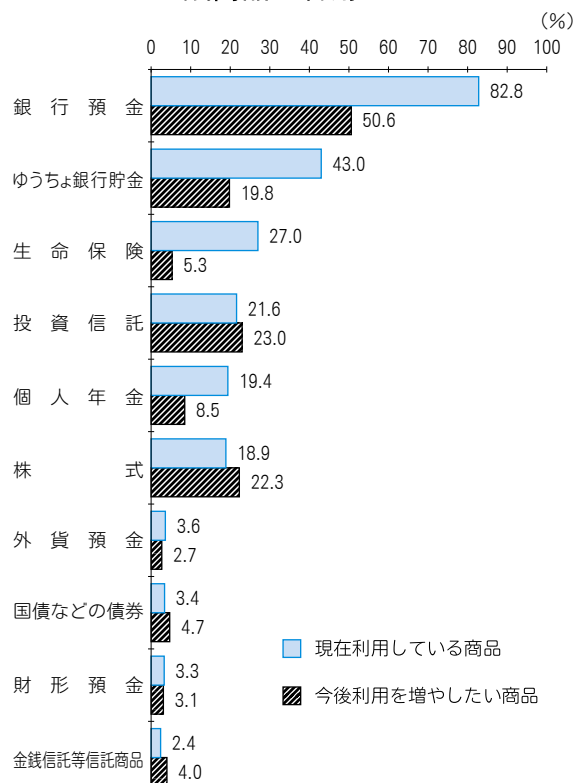
貯蓄をする際、重視する点（3項目選択）は、「元金の保証があり安心」が最多で、以下、「預け入れ引き出しが自由」、「金利が高い・利回りが良い」、「値上がりが期待できる」、「利用金融機関が自宅から近い」の順となっている。

年代別にみると、すべての年代で1位は「元金の保証があり安心」となった。2位は40代以下が「預け入れ引き出しが自由」、50代以上は「金利が高い・利回りが良い」の順となっている。

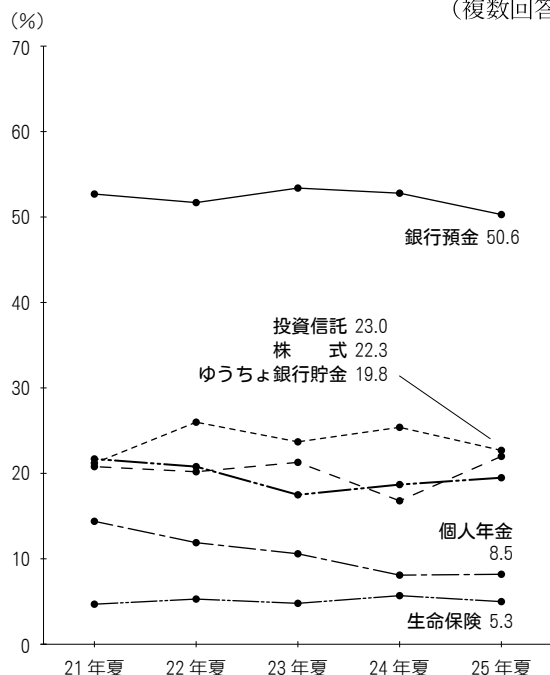
現在の貯蓄額



金融商品の利用（複数回答）



今後増やしたい金融商品の推移
(複数回答)



貯蓄する際重視する点 (3項目まで選択)

	全体	20代	30代	40代	50代以上	昨夏順位
元金の保証が安心	52.6	59.3	43.0	45.5	61.4	1
預け入れ自由 引き出しが自由	40.7	49.6	40.2	37.0	38.6	3
金利が高い・ 利回りが良い	37.2	38.1	32.7	36.4	40.4	2
値上がりがる 期待できる	22.9	22.1	29.9	22.4	19.3	4
利用金融機関が 自宅から近い	10.5	13.3	10.3	10.3	9.0	5
利用金融機関の 利便性が高い	7.3	5.3	7.5	7.9	7.8	6
利用金融機関の サービスが良い	6.4	3.5	6.5	7.3	7.2	7
利用金融機関が 勤務先から近い	3.4	2.7	3.7	5.5	1.8	9
勤務先が利用金融機関 と取引している	3.1	2.7	5.6	3.6	1.2	8
利用金融機関に 友人、知人がいる	2.2	0.9	3.7	3.0	1.2	10
その他	0.9	0.0	0.0	2.4	0.6	—

5 ローン等の利用

平均借入額は904万円

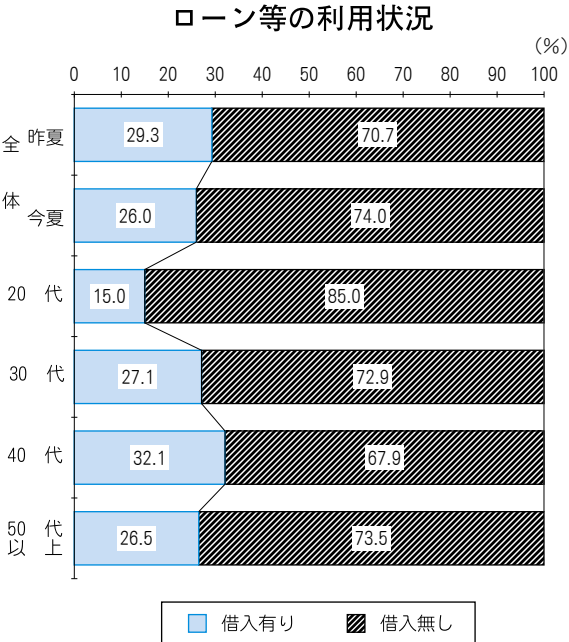
ローン等の利用状況をみると、利用者は26.0%で、平均借入額は904万円となった。

利用目的(複数回答)は、「土地・住宅の購入」が最も多く、以下、「自動車・家電品の購入」、「子や孫への教育資金」と続いた。昨夏と比較すると、「自動車・家電品の購入」、「子や孫への教育資金」の比率が上昇した一方、「土地・住宅の購入」、「自分の教育資金」、「教育資金以外の生活資金」、「旅行・レジャー」は低下した。

借入先(複数回答)は、「銀行(メガバンク・地方銀行)」が最も多く、以下、「月賦・クレジット会社」、「ネット銀行」、「銀行以外の金融機関」の順となった。昨夏と比較すると、「ネット銀行」、「銀行(メガバンク・地方銀行)」などの比率が上昇した一方、「銀行以外の金融機関」、「政府系金融機関」は低下した。

これらを年代別にみると、ローン利用者の割合は、40代が最も高く、以下、30代、50代以上、20代の順となり、平均借入額は、20代が796万円、30代が1,611万円、40代が920万円、50代以上が461万円となった。

利用目的は、20代で「自動車・家電品の購入」、30代以上で「土地・住宅の購入」が最多となった。なお、借入先は20代で「月賦・クレジット会社」、30代以上で「銀行(メガバンク・地方銀行)」が最多となっている。



「金利の低さ」を重視する傾向

借入先を選択する理由（複数回答）は、ローン利用者、未利用者ともに「金利の低さ」が最も多くなった。

ローン利用者の2位以下の順位は、「審査が通りやすい」、「迅速な審査回答」、「事務手続きが簡単」と続いた。昨夏と比べると、「金利の低さ」が低下した以外は、すべての項目が上昇している。金利に対する考え方がやや和らいでいる様子が窺われるものの、「金利の低さ」の回答割合は、依然として過半数を超えており、重視する傾向は続いている。

一方、未利用者の2位以下の順位は、「手数料負担が少ない」、「事務手続きが簡単」、「審査が通りやすい」と続いた。

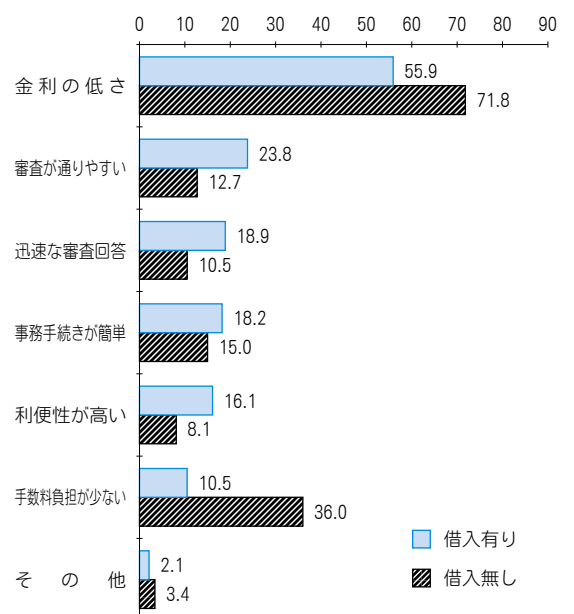
ローン等の借り入れ先・利用目的（複数回答）

(%)

		全体	20代	30代	40代	50代以上
利 用 目 的	土地・住宅の購入	49.0	29.4	62.1	60.4	34.1
	自動車・家電品の購入	31.5	47.1	24.1	32.1	29.5
	子や孫への教育資金	11.2	0.0	17.2	13.2	9.1
	旅行・レジャー	9.1	0.0	3.4	1.9	25.0
	自分の教育資金	7.0	23.5	10.3	5.7	0.0
	教育資金以外の金	4.9	17.6	3.4	3.8	2.3
	その他	3.5	5.9	0.0	1.9	6.8
借 入 先	銀行（メガバンク、地方銀行）	53.1	35.3	44.8	62.3	54.5
	月賦・クレジット会社	21.0	41.2	13.8	17.0	22.7
	ネット銀行	14.0	17.6	10.3	11.3	18.2
	銀行以外の金融機関	13.3	17.6	24.1	9.4	9.1
	住宅金融支援機構等 政府系金融機関	6.3	0.0	0.0	7.5	11.4
	日本学生支援機構	4.9	11.8	6.9	5.7	0.0
	その他	2.1	5.9	6.9	0.0	0.0

借入先を選択する理由（複数回答）

(%)



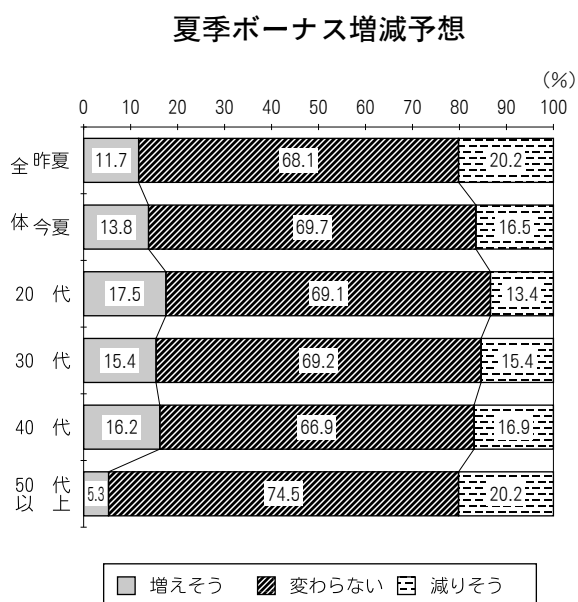
6 夏季ボーナス

手取り予想額は減額が増額を上回る

昨夏と比べた今夏のボーナス（手取り額）の予想は、「増えそう」が13.8%、「減りそう」が16.5%となり、引き続き「減りそう」の比率が「増えそう」の比率を上回った。

両比率の差（「増えそう」－「減りそう」）は△2.7と、昨夏の△8.5から5.8ポイント縮小している。従業員の生活支援やモチベーション向上、人材の確保・維持の観点から、企業が賃上げに取り組む動きが広がっており、勤労者のボーナスに対する厳しい見方が緩和されてきている。

なお、年代別にみると、30代、40代は「増えそう」と「減りそう」がほぼ同水準となっているが、20代で「増えそう」の比率が「減りそう」の比率を上回った一方、50代以上では「減りそう」の比率が「増えそう」の比率を上回っており、若年層と中高年層でボーナスに対する見方が分かれている様子が窺われる。

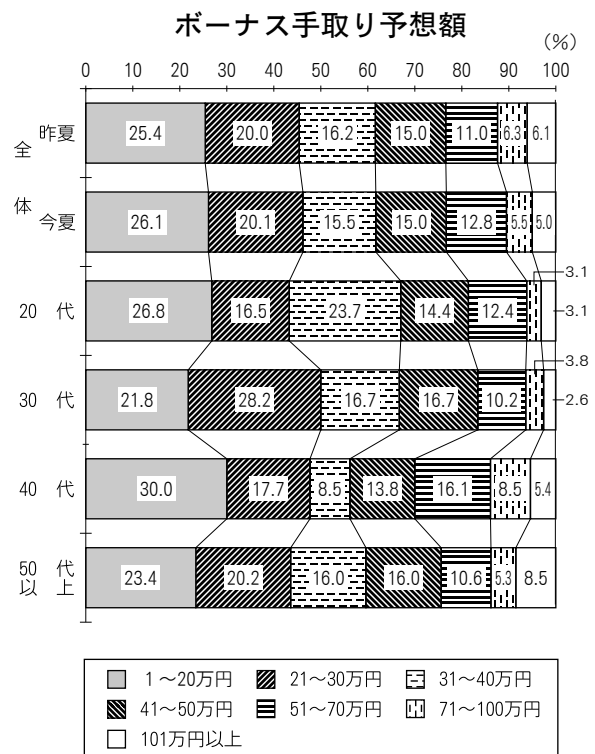


平均手取り予想額は39万2千円

手取り予想額は、「1～20万円」が最も多く、以下、「21～30万円」、「31～40万円」、「41～50万円」の順となった。

また、平均手取り予想額は39万2千円（昨夏40万2千円）で、昨夏と比べて1万円の減少となった。

年代別にみると、20代が36万5千円（昨夏35万1千円）、30代が36万円（同32万7千円）、40代が41万2千円（同42万3千円）、50代以上が42万円（同48万1千円）で、昨夏比では、20代が1万4千円、30代が3万3千円の増加となった一方、40代は1万1千円、50代以上は6万1千円の減少となっている。

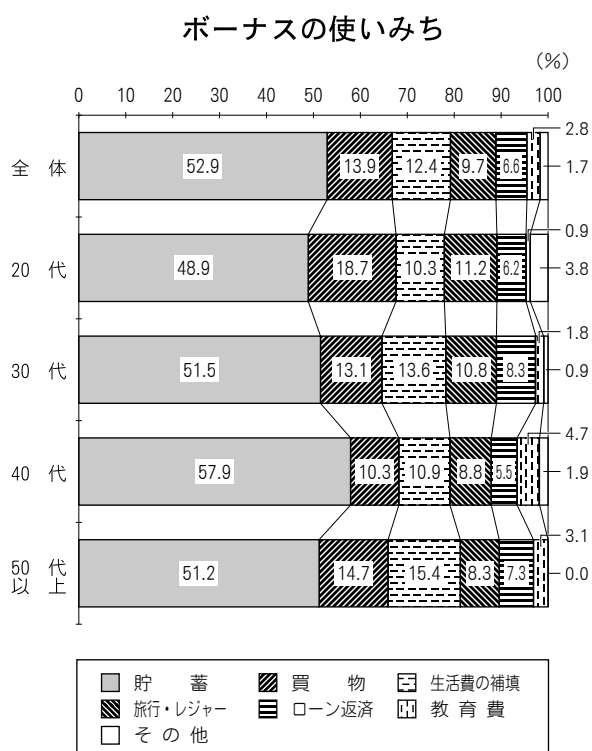


「貯蓄」の優位姿勢は変わらず

ボーナスの使いみちは、「貯蓄」の比率が最も高く、以下、「買物」、「生活費の補填」、「旅行・レジャー」、「ローン返済」、「教育費」の順となった。

年代別にみると、すべての年代で「貯蓄」が1位となっており、依然として、将来に備えて貯蓄を行う動きがみられる。2位は20代で「買物」、30代以上が「生活費の補填」となった。3位は20代が「旅行・レジャー」、30代以上が「買物」となっている。

なお、昨冬に新設した「生活費の補填」は、すべての年代で2桁の比率となり、物価高が続くなか、ボーナスで毎月の収入不足を補おうとする動きが窺われる。



7 お中元

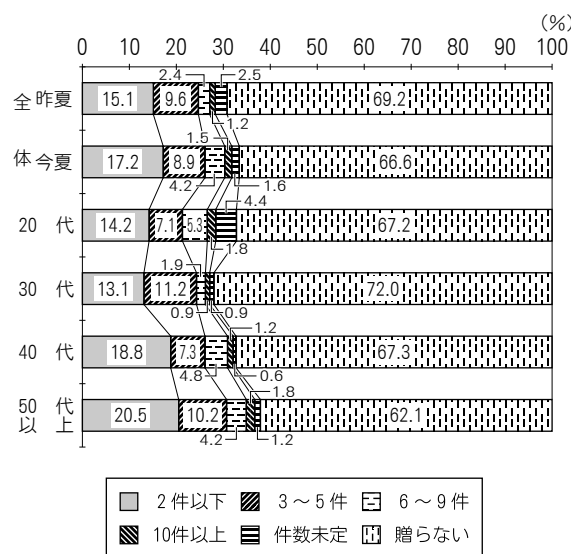
贈る件数は平均 3.1 件

今夏、お中元を贈る予定のある人は33.4%で、昨夏（30.8%）と比べて2.6ポイント上昇した。

贈る件数は、「2件以下」が最も多く、以下、「3～5件」、「6～9件」、「件数未定」、「10件以上」の順となった。平均贈答件数は3.1件（昨夏3.0件）で昨夏を上回った。

年代別にみると、贈る予定のある人の比率は20代が32.8%（昨夏比+2.7ポイント）、30代が28.0%（同+4.3ポイント）、40代が32.7%（同+6.7ポイント）、50代以上が37.9%（同△2.8ポイント）となった。

お中元を贈る件数



平均単価は3,910円、平均予算は12,121円

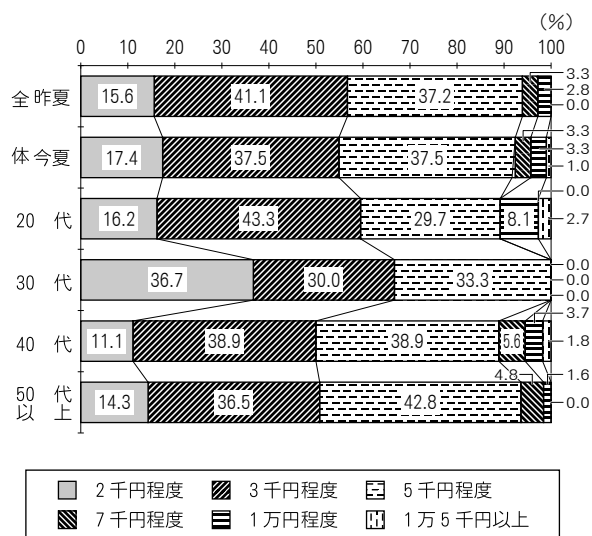
1件あたりの単価は、「3,000円程度」と「5,000円程度」（同率、37.5%）が最も多く、この両方で7割強を占めた。

また、平均単価は3,910円（昨夏3,900円）、平均予算総額は12,121円（同11,700円）となった。

なお、年代別の平均単価は、20代が3,700円、30代が3,259円、40代が4,283円、50代以上が4,000円となっており、平均予算総額は、各々12,210円、9,777円、12,849円、12,000円となった。

お中元の相場

(1件当たり平均単価)



贈りたい商品は「お菓子・スイーツ」が最多

お中元に贈りたい商品（5品目まで選択）は、「お菓子・スイーツ」が最多で、以下、「ハム・ソーセージ」、「果物」、「お茶・コーヒー」、「ビール」（含むビール券、以下同じ）の順となった。

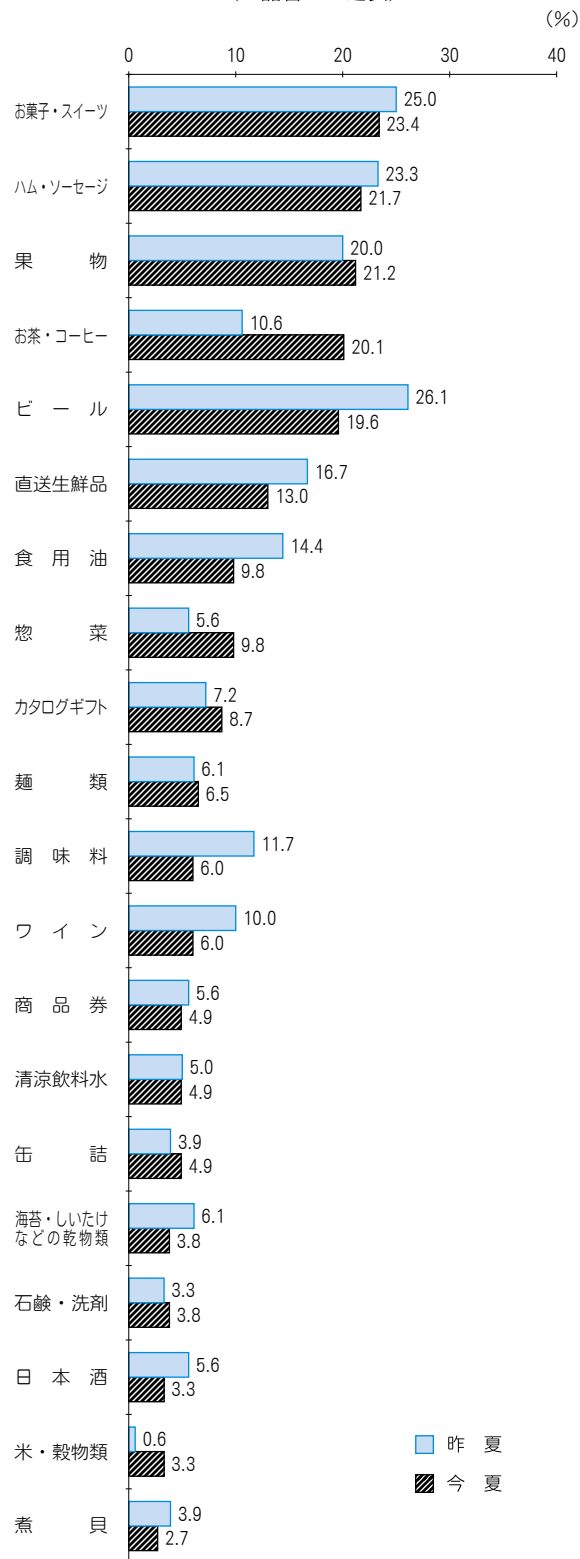
昨夏と比較すると「お菓子・スイーツ」は1.6ポイント低下したものの、2位から1位に順位を上げた。また、昨夏3位の「ハム・ソーセージ」（昨夏比△1.6ポイント）が2位に、4位の「果物」（同+1.2ポイント）が3位に、8位の「お茶・コーヒー」（同+9.5ポイント）が4位にそれぞれ上昇した一方、2021年夏季調査以降1位を維持していた「ビール」は6.5ポイント低下し、5位に後退した。

今夏お中元に贈りたいもののベスト5（年代別）

順位	20代	30代	40代	50代以上
1	お茶・コーヒー	お菓子・スイーツ	お菓子・スイーツ	果物 ビール (含むビール券)
2	お菓子・スイーツ			
3	ハム・ソーセージ	ハム・ソーセージ 果物 お茶・コーヒー	ハム・ソーセージ 果物 お茶・コーヒー	ハム・ソーセージ
4	ビール (含むビール券)			直送生鮮品
5	果物 カタログギフト	食用油 惣菜	ビール (含むビール券)	お菓子・スイーツ

お中元に贈りたいもの

(5品目まで選択)



8 夏休みの過ごし方

「日帰り旅行」が最多

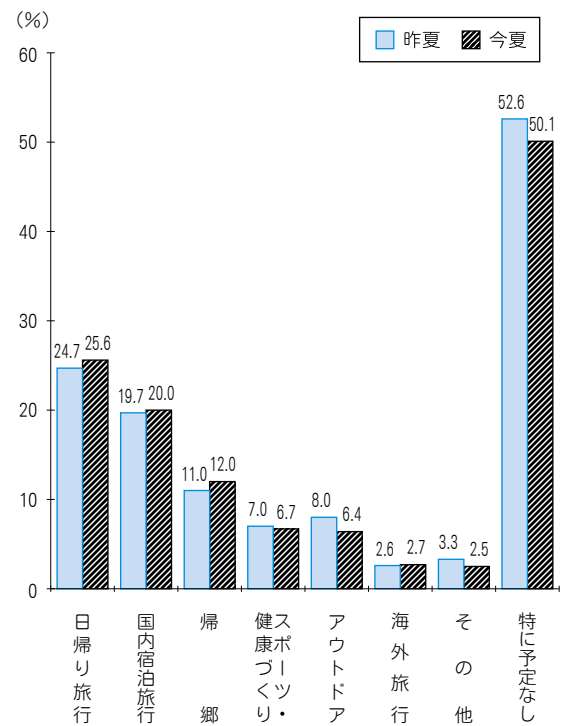
夏休みの過ごし方（複数回答）は、「日帰り旅行」が25.6%と最多となった。以下、「国内宿泊旅行」、「帰郷」、「スポーツ・健康づくり」、「アウトドア」、「海外旅行」と続いた。なお、「特に予定なし」は50.1%となった。

昨夏と比較すると、「帰郷」（昨夏比+1.0ポイント）、「日帰り旅行」（同+0.9ポイント）、「国内宿泊旅行」（+0.3ポイント）、「海外旅行」（同+0.1ポイント）が上昇した一方、「特に予定なし」（同△2.5ポイント）、「アウトドア」（同△1.6ポイント）、「スポーツ・健康づくり」（同△0.3ポイント）は低下した。

年代別にみると、「特に予定なし」を除いた場合、すべての年代で1位が「日帰り旅行」、2位が「国内宿泊旅行」となり、3位は20代から40代が「帰郷」、50代以上は「帰郷」・「スポーツ・健康づくり」（同率）となっている。昨夏と比較すると、30代の「日帰り旅行」、40代の「国内宿泊旅行」、「帰郷」の上昇、50代以上の「国内宿泊旅行」の低下が目立っている。

「国内宿泊旅行」の宿泊日数をみると、「2泊」が45.5%を占め、以下、「1泊」（36.4%）、「3泊」（10.9%）となった。平均宿泊日数は1.9泊で、昨夏と比較すると、「2泊」（同+12.4ポイント）が上昇した一方、「1泊」（同△10.1ポイント）は低下した。

夏休みの過ごし方（複数回答）



夏休みの過ごし方（複数回答）

(%)

	全体	20代	30代	40代	50代以上
日帰り旅行	25.6	30.1	30.8	24.2	20.5
国内宿泊旅行	20.0	20.4	26.2	22.4	13.3
帰郷	12.0	15.9	12.1	14.5	6.6
スポーツ・健康づくり	6.7	7.1	4.7	7.9	6.6
アウトドア	6.4	8.0	8.4	5.5	4.8
海外旅行	2.7	2.7	1.9	3.0	3.0
その他	2.5	2.7	2.8	1.8	3.0
特に予定なし	50.1	43.4	44.9	47.9	60.2

(特別調査) 賃上げ・物価上昇関連

本調査では、賃上げの状況、物価上昇に伴う家計への影響について伺った。

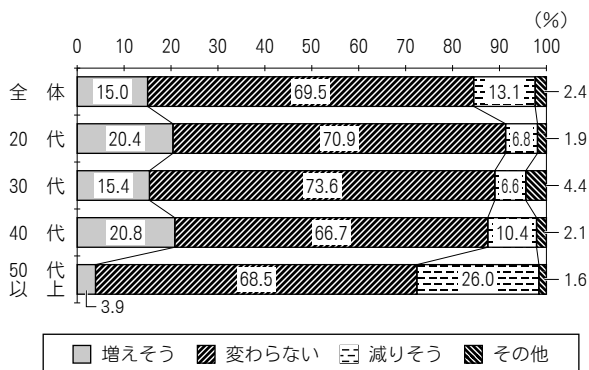
定例給与は「変わらない」が7割弱

定例給与を受け取っている勤労者の、昨年と比べた定例給与（時間外手当、ボーナスを除く）の水準については、「増えそう」が15.0%、「変わらない」が69.5%、「減りそう」が13.1%となった。

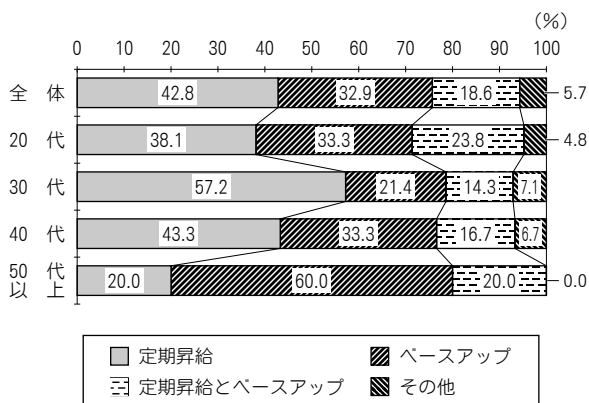
「増えそう」の回答を年代別にみると、40代が20.8%と最も高く、以下、20代が20.4%、30代が15.4%、50代以上が3.9%となっている。一方、「減りそう」は50代が26.0%と最も高く、以下、40代が10.4%、20代が6.8%、30代が6.6%となっている。

定例給与増加の理由については、「定期昇給」が42.8%、「ベースアップ」が32.9%、「定期昇給とベースアップ」が18.6%となった。合算すると全体の61.4%が定期昇給で、51.5%がベースアップにより定例給与が増加している。

定例給与の水準



定例給与の増加理由

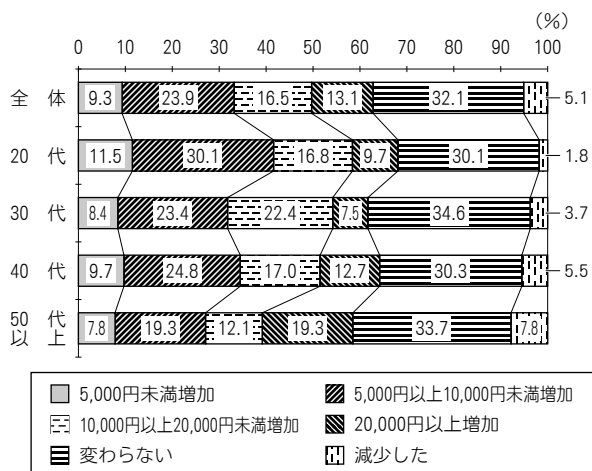


6割強で家計負担が増加

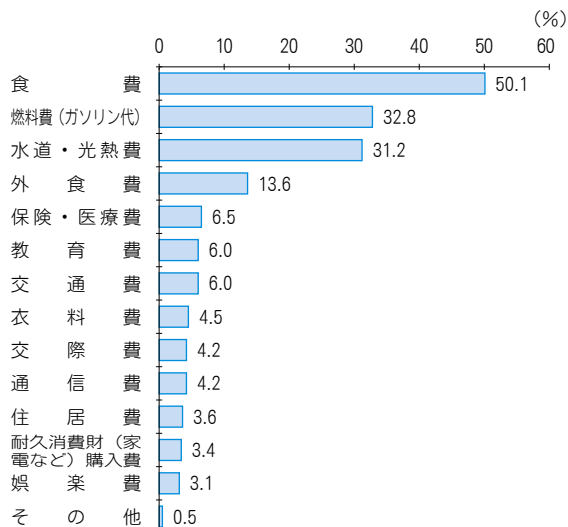
昨年と比べた1か月の家計負担の増加額については、「5,000円以上10,000円未満増加」が23.9%で最多となった。以下、「10,000円以上20,000円未満増加」が16.5%、「20,000円以上増加」が13.1%、「5,000円未満増加」が9.3%となり、6割強が昨年に比べ家計負担が増加したと回答している。なお、「変わらない」は32.1%、「減少した」は5.1%となった。

主に増加した項目については、「食費」が50.1%で最多となった。以下、「燃料費（ガソリン代）」（32.8%）、「水道・光熱費」（31.2%）、「外食費」（13.6%）となっている。

家計負担額の水準



家計負担要因



ご利用
無料



便利を tap! ヌビスキ Bank

山梨中銀アプリ

Yamanashi Chuo Bank

銀行の手続き、アプリでできました。



平野美宇 選手
(木下グループ所属)



SPORTING BEARS
©23 SANRIO CO., LTD. APPROVAL No. 1841417

お金の管理、スマートに!

ダウンロードはコチラ

山梨中銀アプリ

検索

App Store
からダウンロード

Google Play
でインストール



くわしくは山梨中央銀行の窓口
または フリーダイヤルへどうぞ
(受付時間) 月曜日～金曜日 9:00～17:00(ただし、祝日・12/31～1/3は除きます。)



0120-201862

照会コード
2

山梨中央銀行

<https://www.yamanashibank.co.jp/>